

## 15. 堆肥の流通体制確立に向けた取組

中部振興局

○中甕諒太

### 1 背景・目的

当管内の酪農経営は平均の経産牛飼養頭数が109頭と県内でも比較的に規模が大きく、購入飼料に依存した経営が多い。これらの経営体では糞尿は施設で堆肥化处理して、近隣農家等へ販売している。しかしながら、高齢化を起因とする農家数の減少によって堆肥販売量が減少したため、経営内に滞留する堆肥が増加して経営上の課題となってきた。そこで、地力向上に取り組む集落営農組織と連携し、新たな堆肥の流通体制確立に取り組むことになった。

### 2 取組内容

#### (1) 堆肥の生産・販売状況及び利用意向についての調査

堆肥の生産・販売側と利用側の現状及び今後の意向を把握するため、酪農家と集落営農組織に対してアンケート調査を行った。その結果、酪農家側では、多忙な作業により堆肥を運搬できる範囲が限られていることが分かった。また、集落営農組織側では、堆肥の運搬や散布を行う手段がないため、堆肥利用が出来ない組織があることが判明した。

#### (2) 堆肥活用プランの作成

アンケート調査の結果、堆肥の活用に関心があった3つの集落営農組織について、堆肥の必要な時期と量を考慮した堆肥需給のマッチングを検討するなど、活用プランを作成した。

また、集落営農組織での堆肥利用の取組を進めるため、牛糞堆肥を活用した土づくりの実証に必要な経費を助成する補助事業を実施し、地力向上効果を明らかにすることにした。

#### (3) 堆肥運搬・散布体制の確立支援

堆肥の運搬、散布に関しては酪農家、集落営農組織ともに労力がなく、作業機械を所有していなかったため、作業を請け負う業者を探して委託することで堆肥散布体制を確立し、実証に取り組んだ。

### 3 成果

酪農家と集落営農組織との間で新たな堆肥流通体制が構築されたことで、堆肥流通量が約300t増加し、15haの農地で堆肥施用による地力向上の取組が行われた。

また、堆肥を利用した集落営農組織の評価が高かったことから、当該組織での継続利用につながったことに加え、今回の取組が波及し、堆肥利用に取り組む新たな集落営農組織が現れた。

### 4 残された課題

安定的な流通体制を確立するためには、堆肥利用側に製品堆肥を保管する施設を整備する必要がある。また、堆肥利用に係るコストを抑え、永続的に取り組んでいける仕組みとするためにも、地域内に堆肥散布作業を請け負う組織を育成する必要がある。